



RISA PARTNERS INC.

株式会社リサ・パートナーズ

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 3月

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

同事務取扱場所 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
TEL：0120-232-711（フリーダイヤル）

上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部

公告方法 電子公告による

www.risa-p.com



RISA PARTNERS INC.

第12期 営業報告 / 2009.1.1-12.31 [YEAR BOOK]

株主の皆様へ
RISAの次なる“一手”にご期待ください。

当社は創業以来、日本生まれならでは投資銀行を目指し、事業再生や不良債権処理の分野を中心に75行の金融機関と提携関係を構築するなど、事業金融マーケットで一定のポジションを築き上げてまいりました。また投資や各種助言を行うユニークなビジネスモデルを構築し、2008年の夏以降から続いた金融危機下にあっても連続して一定の営業利益を確保するなど、営業基盤の確かさを確認することができました。

当連結会計年度における経済環境は、投融資に向かう大量の資金が世界的規模で急激に収縮するという未曾有の状況ではありましたが、当社事業の企業投資ファンドの分野において、国内年金基金を中心に200億円を超える2号ファンドの募集を終了いたしました。1号ファンドで投資していた大型案件の出口を実現して大

幅な利益貢献を果たした事と合わせ、当社に対する市場の信認の厚さ、本事業の将来性を確認することができました。

また2009年2月に行ったNECキャピタルソリューション株式会社との業務資本提携は、当社が提供できるサービスの幅を大きく広げ、同社との共同営業活動を通じて寄せられた多くの相談案件の中から様々な投融資案件を実現できました。

一方で、レバレッジをつかって高収益を追求した大型不動産共同投資は、2007年後半以降投資を抑制したもののその後の急速な市況悪化によりその投資価値が激減したため、当社は2008年度及び2009年度の2期にわたり大幅な減損処理を行って含み損を処理いたしました。

これらの結果、当連結期間の売上高は19,859百万円、営業利益は5,092百万円、経常利益は3,202百万円、当期純損失は2,786百万円

となりました。

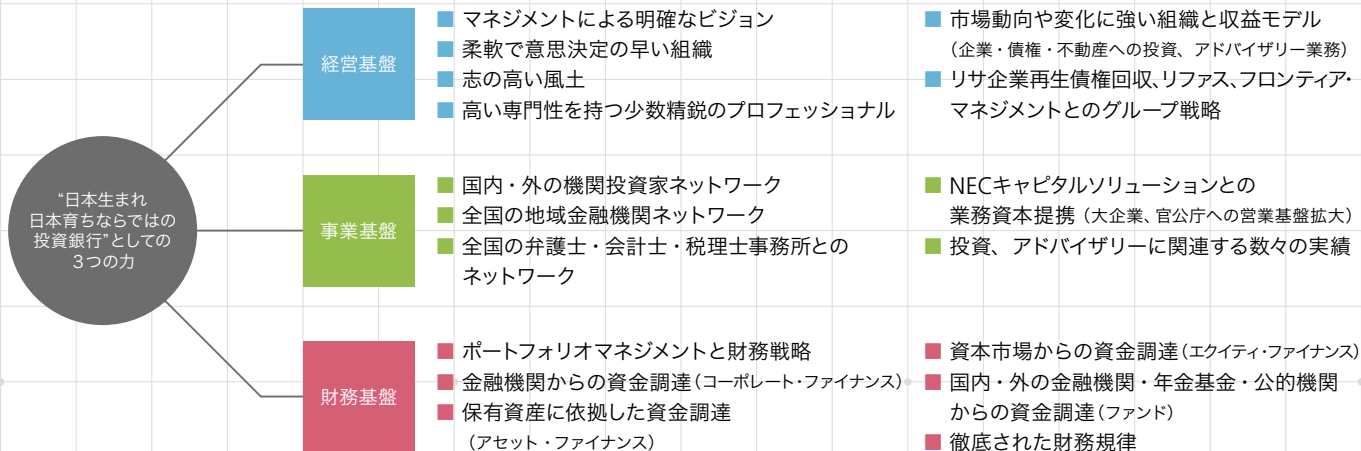
金融危機も一段落し、日本経済や金融市場が緩やかに回復していくなかで、当社の持つイノベティブな投資銀行機能、現場力に裏打ちされた投融資機能への期待は今後さらに高まると予想されることから、当社は2010年度を中長期的な企業成長を見据えたさらなる攻勢の年であると位置づけています。

株主の皆様におかれましては、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 井無田 敦

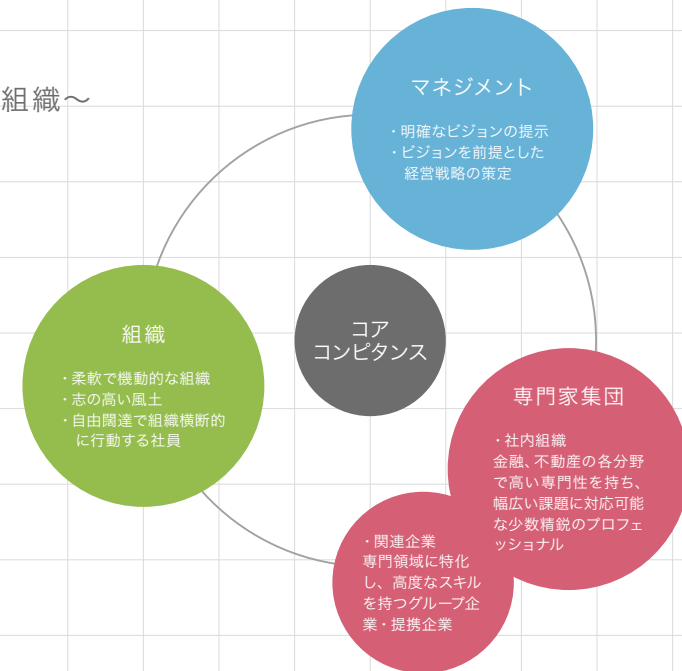


リサ・パートナーズの今 ～着実に蓄積してきた実力～



強固な経営基盤 ～コアコンピタンスを形成する人と組織～

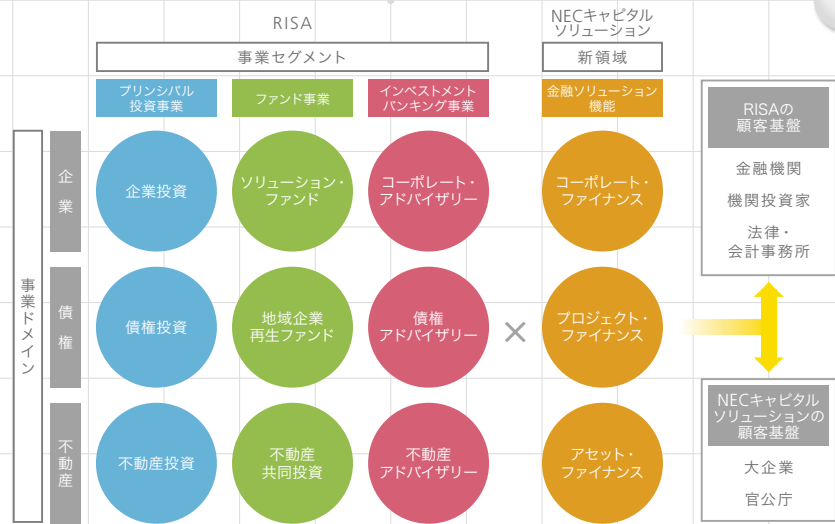
マネジメントによる明確なビジョンの提示と戦略策定、金融・不動産への深い造詣を持ちグローバルに通用する専門家集団。この両者が結集し、双方向でかつ迅速な意思伝達がなされる組織体制が当社のコアコンピタンスです。高い洞察力や実行力、高潔な志を持つ個人がそれぞれに能力を発揮し、その相乗効果によってお互いの成長、企業の発展につながるような組織を理想としています。



バランスのとれた事業基盤 ～横断し、結ばれ、創造される価値～

債権アドバイザーからスタートした当社のビジネスは、やがて自己資金や投資家と共同で投資を行う事業へと発展、関与する分野も債権から企業、不動産へと広まり、現在ではさまざまなビジネスチャンスを的確に捉えられる体制が整っております。

さらにNECキャピタルソリューションの持つ金融ソリューション機能やコネクションも活用したクロスセリングを行うことにより、新たなマーケットの創出とさらなる事業基盤の強化が期待されます。

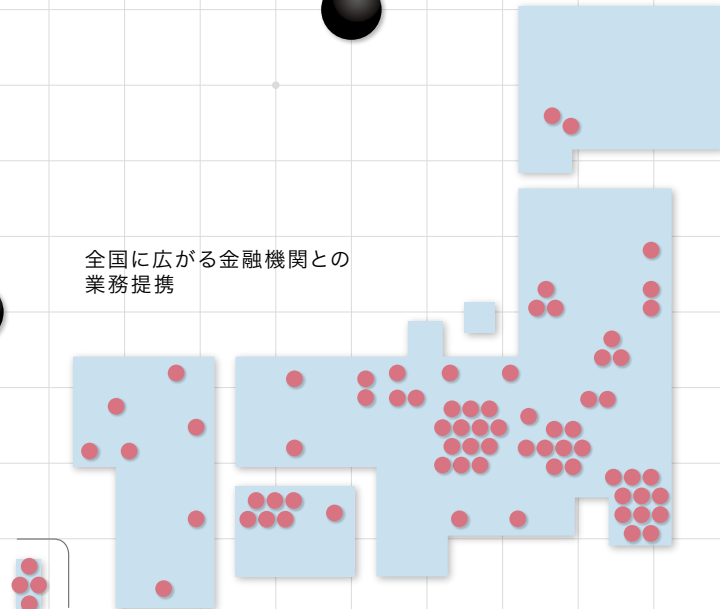


投資機会を逃さない財務基盤 ～多様な資金調達手段がもたらす財務戦略～

当社はデット・ファイナンス、エクイティ・ファイナンス、ファンド形態による資金調達をバランスよく活用することにより、安定的かつ機動的な資金調達手段を確保しております。

またこれまでに培ってきた地方金融機関を中心とする資金調達ネットワークとそれを活用したシンジケートローンの組成は、財務的側面のみならず、投資機会を逃さないスピーディーな事業展開を進める上でも大変重要な要素であると位置づけており、今後も維持と拡充を目指してまいります。

全国に広がる金融機関との業務提携



新成長戦略1

～収益力の高い投資ビジネスの確立～

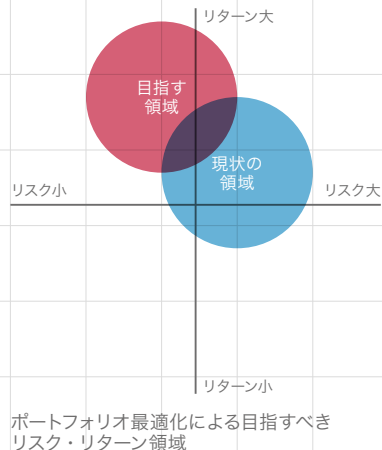
当社はこれまでに蓄積してきた経営資源を最大限に活かし融合させることにより、よりローリスクでハイリターンな収益構造を目指します。そのため、投資ポートフォリオの最適化及び収益性のさらなる改善を継続して行うとともに、投資案件の発掘から検討、投資の実行、バリューの極大化、そして出口へと至る投資ビジネスの各フェーズにおいても、当社の持つさまざまな機能を有効に働かせることにより、収益の極大化を追求します。これらの取り組みにより、付加価値を追求した収益力の高い投資ビジネスの確立が可能です。

プリンシパル投資
からファンド投資への
重点移動

投資案件周辺業務
での手数料収益の
補足

バランスのとれた
投資ポートフォリオの
構築

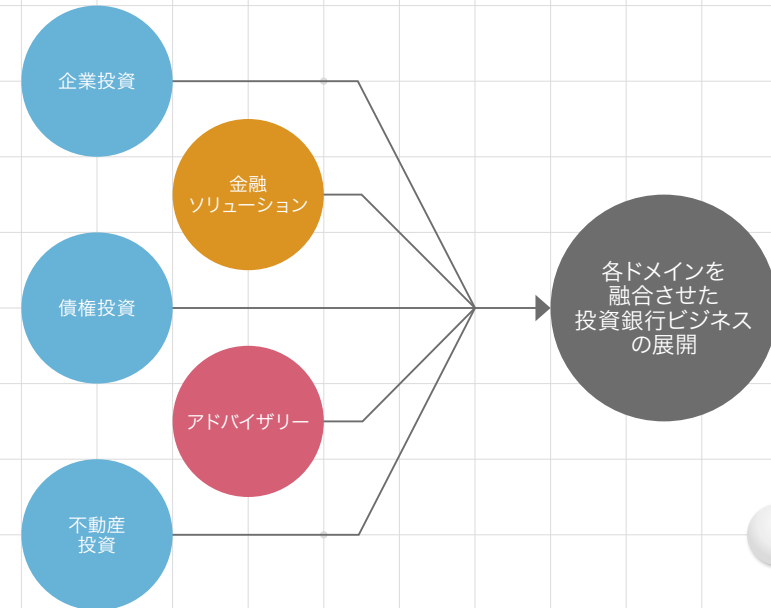
投資ドメイン(企業、債権、不動産)のバランス/安定収益型投資とキャピタルゲイン型投資のバランス/長期投資と短期投資のバランス



新成長戦略2

～卓越したソリューション事業の展開～

当社のビジネスモデルである、投資とアドバイザリーという事業セグメントに、企業・債権・不動産の各ドメインを縦横に組み合わせることで、ワンストップで顧客のニーズに応えることのできるソリューション事業をダイナミックに展開していきます。これはマーケットインの発想であるとともに、ビジネスチャンスを見逃さないための取り組みでもあります。これまでに蓄積した投資ノウハウとアドバイザリーノウハウを融合することで、各専門領域を超えた複合的なソリューション事業の最適解を目指します。

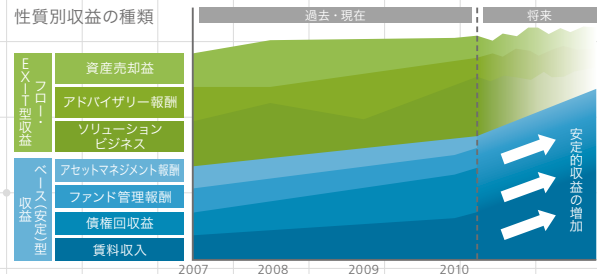


新成長戦略3

～より安定した基盤の構築と拡充～

・安定した収益基盤の構築

創業以来ナレッジを蓄積し、成果を上げてきた「ベース型収益」を継続的に増加させることで、社内外の環境に影響されやすい「フロー・EXIT型収益」のリスクをヘッジし、より安定した収益基盤を構築することを目指します。



※過去・現在に関しては、実績を正確に反映しているわけではありません。あくまで性質別収益を大まかに捉えていただくことを目的としております。

・強固な経営基盤の構築

行動規範

「革新的な手法で日本を再生する」という高い志を持つプロフェッショナルたちが、モラルを大切にしながらも組織横断的に活動できる、当社の自由闊達でベンチャー精神に溢れた風土を引き続き維持します。

リスク管理体制

総合リスク管理システムの構築、投資委員会によるリスク判断、投資ポートフォリオ分析の実践により、全社的なリスク判断とリスクマネジメント体制の構築を行い、リスクの分散と軽減を図ります。

組織・人材戦略

組織の持つ力を最大限に発揮できるよう、4本部制（投資銀行本部・戦略投資本部・財務本部・管理本部）に移行します。また人材の発掘・育成を強化し、世界に通用するプロ人材を確保します。

“日本を再生する投資銀行”でありたい。

RISAはそのことにこだわり、
未来への布石を打ってきました。

激変する環境もチャンスと捉え、
企業を、地域経済を、
そして日本を再生する。

RISAはこれからも、「真」で「新」なる
投資銀行であり続けます。

すべては、日本の未来のために。

ここから攻めの一手。

01

企業投資では、ホテルや旅館など既存の投資先からの事業収益を安定的に計上しました。債権投資では、既存の貸付債権における回収が順調に推移し、コンスタントに収益を得ました。また、不動産投資事業においては、投資先のバリューアップに努め、収益物件からの賃料収入や一部物件の売却により収益を確保しています。これにより、当期の売上高は7,590百万円、営業利益は2,653百万円を計上しました。

【事業例：企業】くつろぎ宿の再生が完了

当社が地域金融機関などとともに2005年からハンズ・オンで再生支援を行ってきた会津東山温泉「くつろぎ宿」の再生がシナリオ通り完了し、2009年1月に無事出口を迎え、収益に貢献しました。

【事業例：不動産】上野ゲートタワープロジェクト

台東区都市計画審議会を経て2009年12月に都市計画(特定街区)の変更が決定しました。ホテル中心プランからオフィス中心プランに変更したもので、これにより事業性及び上野エリアでの社会貢献度が向上します。

02

企業投資ファンド、地域企業再生ファンド、不動産共同投資プログラムについて、運營業務を受託しています。当期は企業投資ファンドのうち、大型案件であるダイレックス株式会社の株式が他社へ譲渡されたことにより出口を迎えたことで収益が計上されました。また企業投資ファンドの増額による管理報酬の拡大などにより、売上高は11,019百万円、営業利益は3,366百万円を計上しました。

【事業例：企業】企業投資第2号ファンドの増額

企業投資ファンド「リサ・コーポレート・ソリューション・ファンド」の第2号ファンドが新たに複数の国内年金基金から約110億円の追加出資を集めました。その結果、企業投資ファンドの投資コミット総額は435.75億円に達し、管理報酬による収益を確保しました。

【事業例：不動産】大型不動産投資案件の出口

不動産共同投資プログラムにおいて投資物件として保有していた新宿三和東洋ビルを、2009年12月に京王電鉄株式会社に譲渡、無事に出口を迎えキャピタルゲインを獲得いたしました。

Investment Banking

インベストメントバンキング事業

03

M&A等のファイナンシャル・アドバイザー業務や企業再生支援業務、サービシング業務、デューデリジェンス業務など、金融や不動産のノウハウを統合的に活用したコーポレートソリューション業務を展開しています。当期は金融危機の長期化により市場全体が影響を受けており、当社の案件の積み増しや収益にも波及しました。これにより、売上高は1,618百万円、営業利益は571百万円を計上しました。

【事業例：企業】コーポレートアドバイザー

当社が有する地域金融機関とのネットワークと不動産分野の専門性を活かして、不動産会社の事業再編に関するアドバイザー業務の案件を受託、手数料収益を獲得しました。

【事業例：債権】デューデリジェンス業務の受託

大手金融機関より大型民事再生案件を含む複数の貸付債権に対するデューデリジェンス業務を受託しており、これによる手数料収益を獲得しました。

Financial Solution

金融ソリューション

04

新領域

全国の金融機関とのネットワークや企業投資、再生分野の専門性に強みを持つ当社と、官公庁や大手企業に太いチャネルを持ち資産担保金融分野での先進性にも定評があるNECキャピタルソリューション。この両社の業務資本提携により、それぞれの顧客基盤を利用したクロスセリングや事業上の機能補完による収益機会の増加が図れるようになりました。また、両社の経営資源を融合することによるシナジー効果でいっそう競争力が高まり、さらなるブランド力向上が

期待されるとともに、新たな金融ソリューション分野での次の展開の足がかりを築くことができました。

【事業例：債権】NECキャピタルソリューションとの共同投資

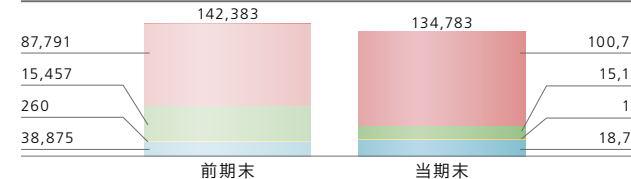
2009年2月に業務資本提携をしたNECキャピタルソリューションとの協働により、債権投資を開始しました。なお、ファンド事業における新たな取り組みとして、両社による債権投資の共同投資プログラムを検討しております。

財務の状況

連結貸借対照表〈要約〉(単位:百万円)

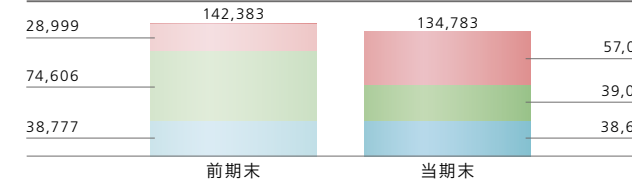
	前期末 (2008.12.31現在)	当期末 (2009.12.31現在)	増減額
(資産の部)			
流動資産	87,791	100,791	13,000
有形固定資産	15,457	15,122	△335
無形固定資産	260	127	△133
投資その他の資産	38,875	18,741	△20,134
資産合計	142,383	134,783	△7,600

資産の状況(単位:百万円) ■流動資産 ■有形固定資産 ■無形固定資産 ■投資その他の資産



	前期末 (2008.12.31現在)	当期末 (2009.12.31現在)	増減額
(負債の部)			
流動負債	28,999	57,025	28,026
固定負債	74,606	39,089	△35,517
(資本の部)			
純資産	38,777	38,668	△109
負債・純資産合計	142,383	134,783	△7,600

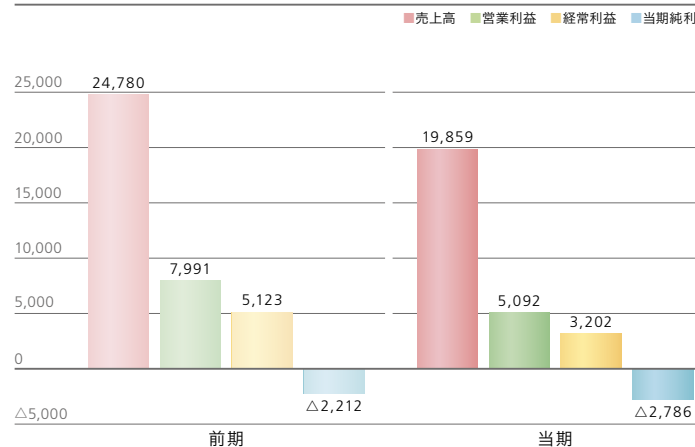
負債・純資産の状況(単位:百万円) ■流動負債 ■固定負債 ■純資産



連結損益計算書〈要約〉(単位:百万円)

	前期 (2008.1.1~ 2008.12.31)	当期 (2009.1.1~ 2009.12.31)
売上高	24,780	19,859
売上原価	10,811	9,744
売上総利益	13,969	10,114
販売費及び一般管理費	5,977	5,022
営業利益	7,991	5,092
営業外収益	109	322
営業外費用	2,976	2,212
経常利益	5,123	3,202
当期純利益	△2,212	△2,786

売上高、営業利益、経常利益、当期純利益(単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書〈要約〉(単位:百万円)

	前期 (2008.1.1~ 2008.12.31)	当期 (2009.1.1~ 2009.12.31)
① 営業活動によるキャッシュ・フロー	△17,680	10,770
② 投資活動によるキャッシュ・フロー	△20,365	△2,433
③ 財務活動によるキャッシュ・フロー	28,656	△6,866
現金及び現金同等物の増減額	△9,389	1,470
現金及び現金同等物の期首残高	17,833	8,443
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△221
現金及び現金同等物の期末残高	8,443	9,692

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果獲得した資金は10,770百万円(前年同期は17,680百万円の使用)となりました。これは主に営業投資有価証券の減少額2,692百万円や、買取債権の減少額5,790百万円によるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は2,433百万円(前年同期は20,365百万円の使用)となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1,434百万円や、匿名組合等からの分配による収入1,224百万円、貸付けによる支出2,930百万円及び貸付金の回収による収入824百万円によるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は6,866百万円(前年同期は28,656百万円の獲得)となりました。これは主に第1種優先株式発行による払込4,000百万円、シンジケートローン等による資金調達19,278百万円、短期借入金の返済5,226百万円や長期借入金の返済21,839百万円のほか、自己社債の取得1,310百万円や少数株主からの払込みによる収入5,133百万円及び少数株主への分配による支出6,290百万円があったためです。

グループ会社のご紹介



RIFAS
INC.

株式会社リファス

当社グループが培ってきたデューデリジェンスや企業再生などのコンサルティング機能を集約したアドバイザー会社として、企業のさまざまなニーズに対応できるサービスを提供しています。



RISA
SERVICER

リサ企業再生債権回収株式会社

当社グループがもつ広範囲なネットワークと企業再生のノウハウを十分に生かした“地域特化型の企業再生”に強みをもつサービスです。高い「専門性」をもつプロの集団として企業再生機能の充実化を進めています。



HAYATO INVESTMENTS
INC.

株式会社隼人インベストメンツ

グループ*との共同投資を展開するにあたり、案件の発掘を目的として設立した戦略的合併会社です。当社とグループがもつネットワークやノウハウを同社に集約させて、大型投資案件の発掘に注力しています。
※グループ・インターナショナル・パートナーズ



FRONTIER
MANAGEMENT
INC.

フロンティア・マネジメント株式会社

企業経営にかかわる各種専門分野の専門家が集まり運営している事業再生・M&Aアドバイザー会社です。幅広い企業ニーズに対応するとともにクライアントにとって最良の経営判断を導き、その実現を支援しています。



aicafe54

沖縄を代表し、世界で活躍するアスリート「宮里藍」。彼女を応援し、彼女の活躍をもっと身近に感じたい。そんな人たちが集う那覇の中心「国際通り」わきのスポットです。

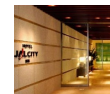


沖縄県那覇市松尾2-1-13
www.aicafe54.com



ホテルJALシティ那覇

沖縄の中心地である那覇・国際通り沿いのシティリゾートホテル。機能的で心地よく安らぎに満ちたスペースと心を込めたおもてなしで皆様をお迎えいたします。

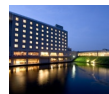


沖縄県那覇市牧志1-3-70
naha.jalcity.co.jp



ホテルアローレ

雄大な白山連峰の山並み、そして柴山湯を一望する自然豊かなホテル。充実のスパ施設と旬の北陸の食材を用いたお料理とともに、心ゆくまでゆっくりとした穏やかな時をお過ごしください。



石川県加賀市柴山町と5-1
www.arrowle.co.jp

会社概要

商号	株式会社リサ・パートナーズ
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂1-11-44 赤坂インターシティ5階 TEL:03-5573-8011 FAX: 03-5573-8012
設立	1998年7月2日
資本金	104億6115万円(2009年12月31日現在)
役員数	235名・グループ全体384名(2010年3月1日現在)
グループ会社	(株)リファス、(株)隼人インベストメンツ、 リサ企業再生債権回収(株)、 フロンティア・マネジメント(株)、 (株)リサ・パートナーズ沖縄、 (株)リサ・パートナーズ那覇 他

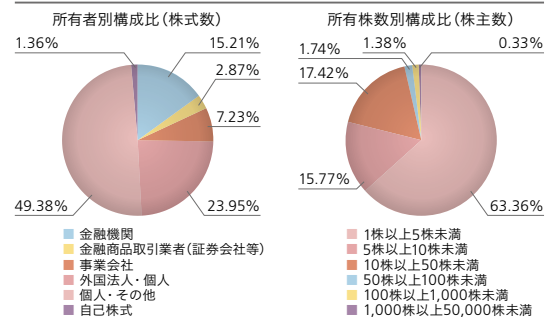
代表取締役社長	井無田 敦
専務取締役	井無田 美鈴
取締役	田中 敏明 加藤 奉之 秋岡 榮子 小山 浩司
常勤監査役	近藤 善三郎
監査役	藤井 保紀 忝山 聡一郎 荒川 真司

株式情報

株式の状況 (2009年12月31日現在)

発行可能株式総数	760,000株	発行済株式数	(普通株式) 296,461株 (優先株式) 40,000株
株主数	11,900名		

株式分布状況 普通株式 (2009年12月31日現在)



大株主の状況 普通株式 (2009年12月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
井無田 敦	31,936	10.92
株式会社ジェイウェイ	18,400	6.29
ザバンク オブ ニューヨーク 132561	14,450	4.94
ジェーピーモルガンチェース オープンハイマー ジャスデック レンディング アカウト	12,000	4.10
井無田 美鈴	11,219	3.83
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	10,725	3.66
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,484	3.24
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	8,127	2.77
渡辺 隆司	3,245	1.10
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505104	2,972	1.01
上位10名 計	122,558	41.86